

自治体との意見交換を開催

利用者の利便性の低下は許さない

地域の生活を支える存在だ

地本は支部と共に岡山支社の「ダイヤ改正」大幅減便に対し、沿線10市3町の運行本数の維持を支社に要望しているのを受け、3市1町（浅口市・里庄町・福山市・笠岡市）との意見交換を行った。

浅口市には桑野和夫市議・沖原ゆみ市議、里庄町には佐藤耕三町議、福山市には池上文夫市議同席のもと行い、意見交換を行いました。

里庄町

①現在まで安心して利用できる鉄道として利用できている、鉄道があったからこそ地元の企業誘致や、里庄町の発展があったと考えている。



浅口市での意見交換

- ②鉄道の位置づけは、地域住民の通勤・通学等の交通手段として重要である。
- ③里庄町として今回の件、何かベストかさぐつている。
- ④JRの安全と利便性は、国の責任でやるべき。

浅口市

- ①列車本数の減便で、列車通学が金光駅・鴨方駅で高校が3校、中学で1校があり、学校を選択の評價地が下がらないか、活性化に影響が出るのではないか。
- ②JRとの会合では、副市長から列車本数の維持を要望してきた。
- ③金光駅の窓口閉鎖は、切

符・定期券の購入で、学生や高齢者が困るので窓口を維持してほしい。

福山市

- ①福山市民の移動の確保を考え、海の航路も含めて利用促進を進めている。
- ②福塩線では、八田原トンネルのイルミネーションを行うなどして、利用促進を図っている。
- ③井原線においても笠岡市、福山市と一緒に継続を求めている。
- ④JRは大切な公共交通機関であり、市民生活の成り立ちのためにも福塩線の継続を前提で考えている。
- ⑤福山市だけが、存続や列車本数の維持を述べるの

ではなく、連携（他の自治体と一緒に）して意見を言うことにしたい。

⑥ダイヤ改正についての説明は、JR岡山支社からサンライナーの廃止について伝えられた。

笠岡市

- ①今回のダイヤ改正ですべての快速（サンライナー）が減便となっている。これまで快速が停車する笠岡駅として自負していたが残念な思いである。
- ②平成29年（2017年）から笠岡駅南口建設を柱とした、2号線の混雑解消、笠岡港ターミナルへのアクセス改善などを視野に入れ構想を練ってきた。その矢先のサンライナーを含めた減便に正直がっかりもしている。
- ③笠岡市には4校（笠岡、笠商、笠工、竜谷）の高校がある。笠工は別として、多くの高校生が列車通学している。減便によって利便性は低下すると思う。
- ④JR岡山支社から2回来庁し、ダイヤ改正の説明が行われた。その際、8時台の通勤・通学列車の時間変更をお願いした。

調整するとの回答があったが、最終版ではその変更がされていなかった。

⑤笠岡市も含め、10市3町で要望を行ってきた。今後の対応はまだ決まっていないが、引き続き要望などは上げていきたいと考えている。

国労として

- ①福山市としては、他の自治体と連携していくことを重視して取り組む考えを示された。広島県も意見を述べており、その中では一緒になって取り組む考えであることが分かった。
- ②こうした動きに対して、沿線自治体から批判の声も上がっている。国労としても、そうした声を聴きながら労働組合の立場から「利便性の低下は許さない」というような取り組みを行っていく。
- ③駅の無人化も拡大されている。無人化の構想は消えていない。今後においても、「地域の生活を支える存在」としての鉄道を目指していく。
- ④自治体の意見や要望を聞く場を今後も設定していく。